

委員からの意見

委員からは、二宮報徳館の定期開館に向けた取組みとして、次の意見が出ました。

- ・自動で音声解説をしてくれるオーディオガイドを導入してはどうか。
- ・バリアフリーに関連して、例えば、入口の段差をなくし靴のまま見学できるようにしてはどうか。
- ・十勝発祥の地である大津の歴史とともに伝えては。
- ・学芸員など専門的な人材を登用し、後継人材の確保・育成に努めては。



入口には段差があり、靴を脱いで上がらなければなりません。

2 二宮簡易郵便局の施設整備等について

二宮簡易郵便局は、老朽化のため、令和5年4月に二宮報徳館へ移転しました。今回は、移転後の二宮簡易郵便局の施設整備の状況について調査しました。

移転の経緯について

旧二宮簡易郵便局舎は、昭和47年築の建物で、建築から50年以上経過しています。老朽化が著しいため、令和3年、日本郵便（株）北海道支社と局舎移転について協議を開始し、令和4年、二宮報徳館内に移転することで承認を受けました。令和4年度に移転改修工事を行い、令和5年4月から新局舎で業務を開始しました。

施設整備の内容は

新しい局舎は、二宮報徳館の職員室を改修したものです。移転改修工事で、窓口ロビーと事務室を整備し、入口階段にアルミのひさしを新たに設置しました。また、空調などの電気設備も整備されています。



手前が窓口ロビー、奥が事務室



入口階段とアルミのひさし

二宮簡易郵便局の運営状況は

年間利用者数は180人から240人、ひと月あたり15人から20人が利用しています。

利用者のほとんどは、二宮地区の地域住民の方です。

年代別で見ると、60歳代の利用が約6割を占め、70歳代以上、50歳代未満はそれぞれ2割程度です。

また、郵便局訪問の記念として局名印の収集を目的に預入や払戻を行う旅行貯金としての利用も一定数あります。

年間の取扱件数は、郵便、貯金合わせて500件前後で、ほとんどが貯金の利用です。

委員からの意見

委員から出た意見は次のとおりです。

- ・二宮報徳館内への移転により、既存の公共施設の複合化を図ることができた。
- ・二宮簡易郵便局に公的証明書の交付や地域の見守り活動などの自治体業務を委託してはどうか。

産業

2/13

大津地域における各施設の整備状況等について調査

1 大津漁港の整備状況等について

大津漁港の整備は、北海道開発局が策定した大津地区特定漁港漁場整備事業計画に基づき進められています。現計画の事業期間は、令和9年度までの10年間で、大津漁港整備の主要対策は、「衛生管理対策」と「防災・減災対策」の2つです。

衛生管理対策

鳥糞や雨などによる汚染や直射日光による鮮度低下を防ぎ、水産物の陸揚から出荷までの作業環境を確保するため、大津漁協荷捌き所の両側（岸壁側とトラック発着場側）に屋根施設を整備します。

岸壁側屋根施設は、令和4年12月に着工し、令和6年に完成しました。トラック発着場側屋根施設は、令和8年度以降の完成を目指し、令和7年12月着工予定です。



令和6年に完成した岸壁側屋根施設

防災・減災対策

津波被害から船を守るため、平成29年3月にクレーン式上架施設と移動式船台車（シップキャリア）を整備しています。

また、令和4年3月には船揚場高上げ工事が完成しています。

そして、令和6年度に漁船上架機材保管施設（シップキャリア車庫）の実施設計をまとめ、令和7年度中の完成を予定しています。



漁船上架機材保管施設は、上の図の白線部分に令和7年度建設予定

委員からの意見

大津地区特定漁港漁場整備事業計画の事業期間が令和9年度末までであり、次期計画の検討時期であることを踏まえ、委員からは次の意見が出ました。

- ・昨今、不漁続きであることから、漁港の余剰スペースを活用した養殖や畜養に取り組むことも考えられるが、漁港内の海底の土砂を取り去り水深を確保する必要があるため、浚渫工事など更なる整備が必要ではないか。
- ・養殖事業は、施設整備に多額の経費がかかることから、慎重に検討をすべきではないか。

2 ジュエリーアイス観光客向け駐車場の整備状況等について



ジュエリーアイス観光客向け駐車場（地域観光交流拠点）

そのため町は、令和6年度、観光庁の「オーバートーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」の補助金を活用し、地域観光交流の拠点となるジュエリーアイス観光客向け駐車場を整備しました。

ジュエリーアイスを見ようと厳冬の早朝、大津地域に観光客が過度に集中することで、地域住民の生活に支障が生じるオーバートーリズムと呼ばれる現象が発生しました。